

低出生体重児救命率

目的

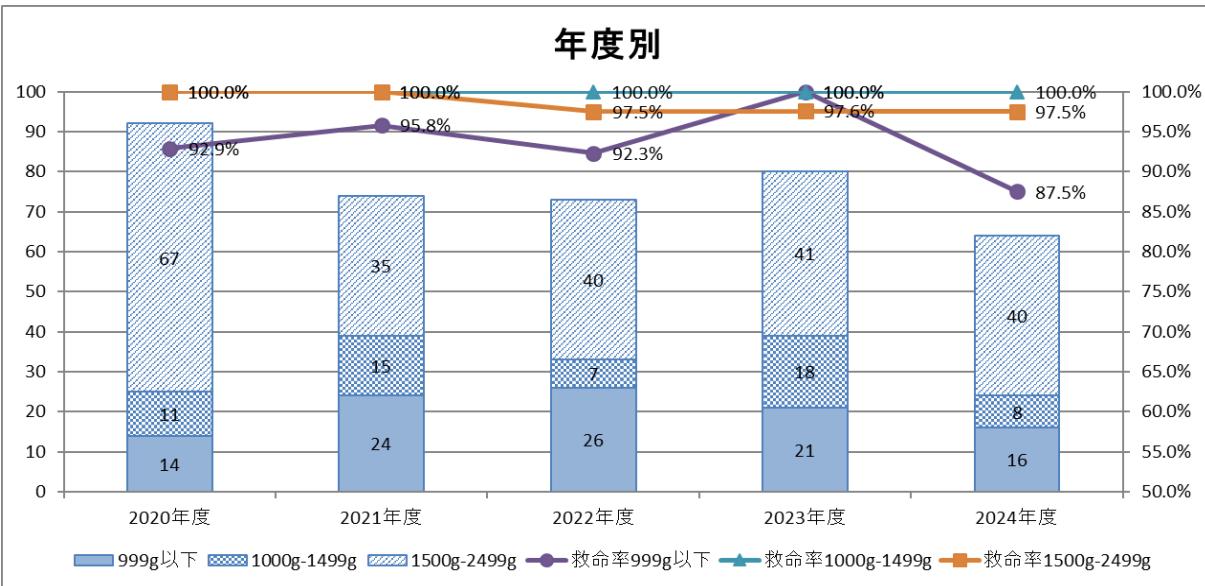
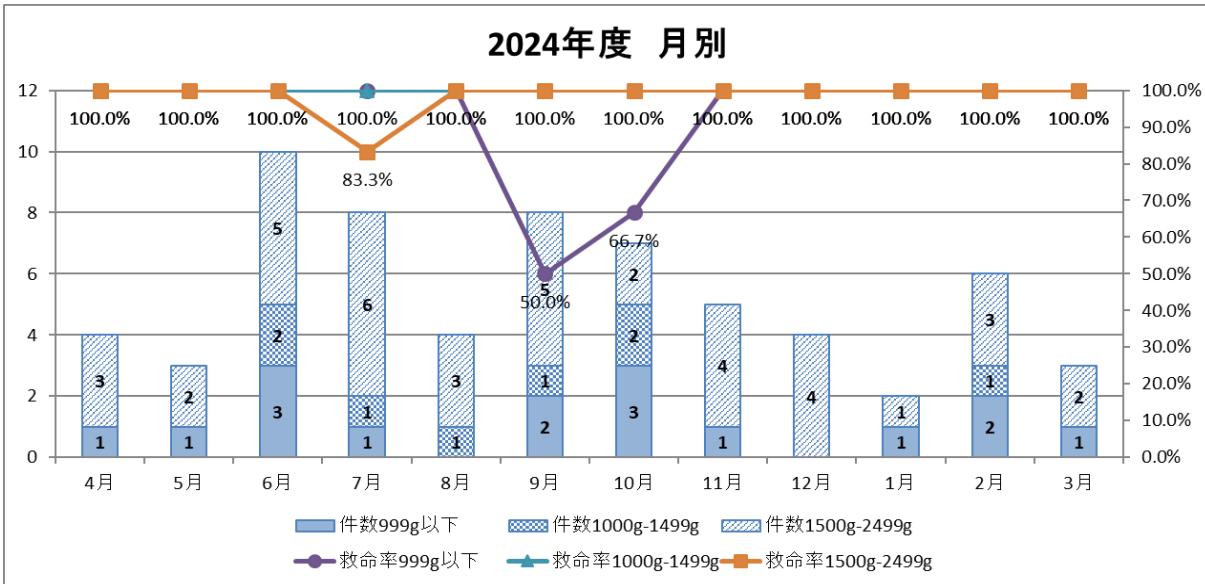
診療の質観測

分母

出生体重が2500g未満の患児

分子

分母のうち転帰が死亡以外の患児



データ抽出内容

医療情報管理DBから抽出

※低出生体重児2500g未満ICDコード…P07.0、P07.1a、P07.1b

データ分析コメント

2024年度の出生体重1500g未満の極低出生体重児の入院数は昨年度より減少していました。この理由は、近年の日本の出生数の減少に伴い、全国的に極低出生体重児の出生数も減少していることが影響していると考えられます。救命率に関しては、出生体重1000–1499gの児は100%と昨年と同様に高い水準を維持していますが、999g未満の児の救命率は、昨年度と比較して低下しています。亡くなつた2症例には重篤な先天異常の合併があつたため、救命が難しかった可能性があると考えています。引き続き、湘南・西湘地区の総合周産期母子医療センターとしての責務を果たすことが出来るよう、スタッフ一同、新生児とそのご家族の幸せのために尽力していくたいと考えています。